

輝く介護

第22号

2011年(平成23年)

11月11日発行

特定非営利活動法人 かまくら地域介護支援機構
連絡事務所 〒247-0061 鎌倉市台 2-8-1 台在宅福祉サービスセンター内
Tel : 0467(46)0788 Fax : 0467(46)0059
http://www.kamashien.com e-mail : jimuk@kamashien.com

2011年のテーマ “ターミナルケアを考える”

第13回
医療と福祉の
ネットワーク会議

「本人の最期の望みをかなえてあげたい」

～ 自宅での看取りを考える ～

講師 オカダ外科医院 院長 岡田 孝弘氏
在宅医療部

前回から3回シリーズで開催されている「ターミナルケアを考える」第2弾として、今回は横浜市旭区にて開業医としての活躍の他に、地域の開業医とのネットワーク(在宅医ネットよこはま)を作り、自らも積極的に在宅医療に取り組んでいるオカダ外科医院の岡田孝弘先生をお招きして、在宅での看取りについて、これまで係わってきた末期がんの事例等を通して、看取りに関する貴重なお話を伺いました。今回も市内の医療・介護・福祉に携わる関係者約130名が熱心に参加しました。市民の皆様の参考にと概要を報告します。

在宅での看取りには、大きく分けてガン末期の在宅療養と高齢期の終末期の場合とがありますが、本人の病状や本人を取り巻く環境、とりわけ家族の介護力の問題、経済的な問題、本人と家族を支える医療と介護の専門職集団の問題など、一人ひとりの周辺環境により様々な課題が生じてきます。

末期がんの在宅での療養は「病名の告知」が浸透してきたことと平行して増加傾向にあります。在宅療養にとって絶対的な条件は、本人が在宅での最期を希望していることと家族も本人の最期の望みを叶えてあげたいと望んでいることです。本人が望んでも病態によって、在宅療養が必ずしも最適な選択でない場合もありますが、本人が在宅での療養を望むのであれば、在宅での医療も研究が進んでいますので可能です。もちろん、病院と同じ医療をそのまま持ち込むことは難しく、在宅には在宅のやり方が研究されています。家族が出来ることをストレスにならない範囲で家族がやる気を起こすように在宅での療養の指導をすることが必要となってきます。それは、本人・家族に安心を与えることにつながっていきます。

また、在宅療養を進めるにあたっては目標を明確にして、家族も含めた係わる人々が共有することが大切であり、本人の辛い時間を短時間にする、本人・家族共に精神的に安定した状態を維持することはもとより、家族が今、やっていることは間違っていないよと不安で一杯になる気持ちを支え、自信を持てるようにしていくことも重要なことです。在宅でのメリット・デメリットをどう捉えていくか。介護あつての在宅医療であり、患者の身体面だけでなく精神面・生活面、介護者のQOLなど、総合的に診断していくケアマネジメントが最も必要です。

在宅医療とは一人の人として、暮らしたい家で自分らしい生活をよりよい状態で暮らせることであり、残された時間をいかにその人らしく使えるかを考えることでもあります。在宅医療では介護を含めた生活基盤が成り立たなければ医療行為も十分に行えません。地域で緩和ケアチームを存在させ対応することが理想です。

出来るだけ多くの医療や介護の関係者が顔の見える関係で“連携の輪”をひろげていきましょう！



市内の介護事業者 頑張ってます！



かまくら地域介護支援機構では、介護保険の充実や資質向上のために様々な取り組みをしています。表紙でご紹介した『医療と福祉のネットワーク会議』もそのひとつですが、ここではその他の活動をご紹介します。市内の介護保険のサービスに携わる介護職やケアマネジャーで構成する組織の事務局も担っています。

鎌倉ケアマネ連絡会

ケアマネジャーとは「介護支援専門員」のことであり
ケアマネと略して呼ぶこともあります

鎌倉ケアマネ連絡会は、市内のケアマネジャーが自主的に研修会を企画運営したり、情報交換をしたりしており、現在 130 名あまりの会員がいます。この度、県域の同じ様な組織である神奈川県介護支援専門員協会と連携し、かながわケアマネ隊の活動に参加協力しました。以下はその活動報告です。

平成 23 年 3 月 11 日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生しました。震災後、鎌倉の地においても、医療や福祉職に携わるもの達は、停電や食料品不足・ガソリン不足などに振り回されながらも、利用者さんの生活を守る為に奔走しました。

震災で大きな被害を受けた岩手県・宮城県・福島県等に向けて、私達「介護支援専門員」は、この大災害時に、専門職として何が出来るのだろうか。考える間もなく、「想いを形に…」「何かの役に立とう！」と行動を起こしました。まずは、義援金の寄付。次に、ケアマネの派遣です。最も津波被害の大きかった宮城県石巻市の地域包括支援センターと連絡がとれ、現地への支援の話が固まり、「かながわケアマネ隊」が発足しました。第一次「かながわケアマネ隊」は、4/15～5/11 まで 2 泊 3 日ずつ、連続して 55 名の派遣が始まり、同時に、活動支援金の募金も開始。意思あるケアマネは現地に赴き、気持ちがあってもいけない仲間や市民の方々からは、募金で活動を支援するという形になりました。この鎌倉からも、多数のケアマネが、「かながわケアマネ隊」の一員として現地に赴いています。現在、第 5 次ケアマネ隊の活動（8/29～10/23）までが終了しており、今後第 6 次が 11 月に予定されています。活動の詳細については、かながわケアマネ隊のブログをご覧ください。

[<http://blog.goo.ne.jp/kcmc-blog>]

第 1 次の 4 月には、現地もまだ混乱の最中にあり、寝袋・食料・水・長靴・ゴム手袋・マスク等大荷物で駆けつけました。在宅・避難所の健康調査や泥かき・書類整理…なんでも手伝いました。4 月～5 月は、まだ行方不明者の捜索が続く中、鼻をつく悪臭と物凄いホコリ、水道や電気も通じず、避難所ではノロウイルスが蔓延し、歩くのにも瓦礫や釘・魚などたくさんの散乱物に注意が必要でした。

7 月～8 月には、蠅が大量発生し、団扇や蠅たたき、蠅とり紙を神奈川で集め、一軒一軒に届けながらの仮設住宅の訪問を続けました。

9 月になるとほぼ仮設住宅への入居が進み、主要な道路は整備され、お店やコンビニも再開され、被災者の方々が力強くこれからの生活に向けて仕事を再開しようとする姿が見られるようになっていました。津波で何も無くなった土地には、雑草や花が生えていました。活動場所は固定され、私達も何度も訪問するうち女川町への馴染みが出てきました。まだ、瓦礫撤去も手付かずの地域もあり、これからも息の長い支援が必要です。今後も心をひとつに活動を続け、一日も早く被災地が元気を取り戻してくださることを願ってやみません。



仮設住宅の訪問調査の様子

鎌倉市通所系介護事業者連絡会

鎌倉市内でデイサービスやデイケアサービスを開業している事業者の組織です。ゲームや歌、体操、リハビリなど、楽しく一日を過ごしていただくための介護技術のスキルアップをしています。今年度の講座を紹介します。

“笑う”と“楽しい” “楽しい”から“笑う”

3回にわたる、のりまき先生こと、ふれあいサポート研究所代表杉浦史晃先生による「介護生活を支援するレクリエーション援助」講座が終わりました。私も目からうろこが何枚か落ちました。関心のある方はURLを確認してください。

<http://www.sky.hi-ho.ne.jp/web-norimaki/>

内容：3回とも一貫して、レクリエーションの意義、笑うことの意味を色々な角度から解説してくださいました。まずは①[楽しい]気持をどのようにその人から引き出すか、人それぞれに楽しいことは違う。②肌で感じる楽しいということ(ふれあいの効果)③認知症と「笑い」の関係・「笑い」と「楽しい」との関係。特に最後の、「笑い」と「楽しい」との関係というのは印象的でした。「笑う」と楽しくなるのか、「楽しい」から笑うのか、という問題ですが、今回の介護フェアの私たちデイのテーマでもあります。私たちはふだんの活動の中で、「笑う」という機能を意識したプログラムを考えたことはあるでしょうか？ふだん私たちは、こんなゲームは楽しくできるかな、こんな作業なら無理なくできるかな、こんな体操ならみんな楽しくやってくれるかな、という視点でのみプログラムを選んでないでしょうか。「笑う」という行為そのものを引き出すことを意識してみませんか？今迄とはちょっと違った「楽しい」ことが見つかりそうな気がします。皆さんも試してみてください。



鎌倉市訪問介護事業者連絡会

鎌倉市内の介護保険による訪問介護サービスを実施している事業者で組織して、現在市内には61の事業者が参加しています。介護技術の研修や事業者間のネットワーク等の話し合いを行っています。

「腰を痛めない介護」キネステイクス介護技術研修会に参加して

去年好評だったキネステイクスの介護技術研修会が今年も昼は台高齢者在宅センター、夜間は鎌倉市福祉センターで、各々3回シリーズで、下西潤子、小川正子両講師の指導によって開催されました。

キネステイクスとは動きに関する学問のキネステと、気持ち良いとか感覚という意味のエステとの造語で人間と人間の接触による自然な動きを再現して介助する技術です。実施する為の条件として一定の空間が必要であることを実感する為に限られた枠の中を大勢で歩いて、更にその枠を狭めて行くと各々の動きはどうなるかを試しました。又、もう一つの条件として、いかにコミュニケーションが大切であるかを知る為に介護する人が目をつぶって介護される人の動きを手で触れるという体験もしました。

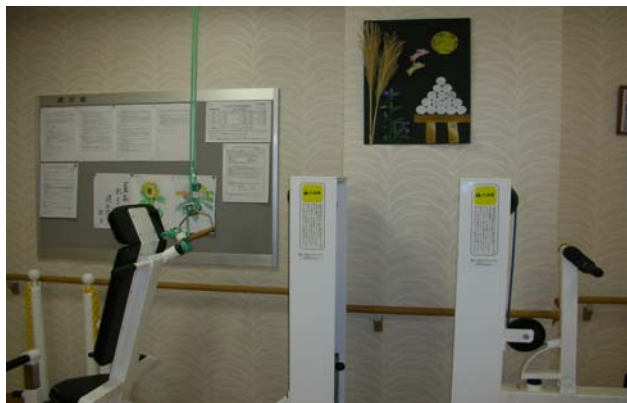


3日目には、重さのある頭、腕、足、胴等の塊、即ちマスが関節、即ちツナギにどのようにつながって次のマスに重さが移動していくのかを自分で理解する為に動き方再現しながらを何回も繰り返し体感しました。「マスとツナギを利用する時はつかまないで、手のひらでしっかり触るんですよ～。身体をま～るくしてあげると楽ですよ～！」と教えて下さったことを忘れずに、現場でも是非この研修を生かしたいと思いました。

活動紹介⇒かまくら地域介護支援機構のホームページへどうぞ！<http://www.kamashien.com/>

施設訪問

ミモザ白寿庵鎌倉 (鎌倉市山崎 1183-13 TEL:0467-39-6511)



昨年4月にオープンしたミモザ白寿庵鎌倉は、1階にデイサービスと小規模多機能型居宅介護、2～4階に高齢者専用賃貸住宅を併設した複合施設です。

1階部分では、デイサービスの利用者と小規模多機能型の利用者が臨機応変に活動を共にするとの事。部屋の一角にはパワーリハビリの道具も配されており、必要に応じて利用されているとの事でした。

アクティビティとしては、絵手紙・ちぎり絵・書道教室・音楽療法・和太鼓を使った体操やレクなどバラエティに富んだプログラムが用意され、壁面にはスタッフ・利用者合同の作品も展示されていました。

2～4階の高齢者専用賃貸住宅は全26室あり、建物の前の道はモノレールの沿線でもありませんが、大型車やモノレールが通ってもその音は気にならず、落ち着いた雰囲気でした。各フロアには共有スペースがあり、入居者の方同士や訪問者があった時などに利用されているそうです。

お話を伺ったデイサービスの管理者 数田さん、10月から新たに管理者になる高橋さんによると、「ここではのびのび過ごしてほしい。また作品作り等を通して達成感を味わってほしい。」との事でした。まだ新しい施設ですが、今年の夏祭りでは地域の方々にも参加を呼びかけて、町内会や地域の老人会とも少しずつ交流の輪は広がっています。

グループホーム運営推進会議に介護相談員が初めて参加！

鎌倉市では現在8ヶ所の認知症高齢者グループホームが運営されています。そして介護相談員が隔月で訪問し、入居している高齢者とお話し合いやご相談を受けています。

グループホームでは、おおよそ2ヶ月ごとに「運営推進会議」を開催し、地域から町内会役員、民生委員さん、地域包括支援センターや鎌倉市の担当職員が参加しています。7月8日に開催された運営推進会議に、私達介護相談員も初めて参加しました。

運営推進会議では、始めにグループホーム担当者から、入居者の動向と状況、イベントなどのホームでの催しについて報告があり、それぞれの立場から感想や意見が出て、ほぼ1時間から1時間半の話し合いがなされます。

今回は、介護相談員の訪問の意義についても話題になり、入居者との話し合いから要望を汲み取ったり、入居者と職員とのやり取りからそのホームの状況を知り、ホームでの生活を過ごしやすいものにしていくという、訪問活動の姿勢を理解していただく機会になったのではないかと思います。

グループホームとは、ご自宅での生活が困難になった認知症のお年寄りが、家庭的な環境の中で、介護する職員と共に少人数(5人～9人)で共同生活を送るものです。介護職員がお年寄り一人ひとりのペースに合わせ介護することにより、認知症の進行を緩やかにし、精神的に安定した生活を送ることができるとを目的としています。